平成21年度　市長との対話会（タウンミーティング）中央区会場　議事録

日　　時：平成２１年１１月２８日（土）　１０：００～１２：００
場　　所：千葉市役所本庁舎　正庁
参　加　者：４７名

■開会

【鈴木企画調整局次長】

大変長らくお待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより、市長との対話会を開催させて頂きます。私は本日の進行役を務めさせて頂く、企画調整局次長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

対話会の進行にあたりまして、本日のスケジュールと連絡事項を申し上げます。

まず本日のスケジュールですけれども、はじめに市長から、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況についてご説明をさせて頂きます。

その後、市長と皆様との意見交換に入らせて頂きます。お時間は12時までの予定でございますので、円滑な進行にご協力頂きますようお願い申し上げます。

次に、連絡事項ですけれども、お手元にございます式次第の中ほど、２のところにお願いがございます。皆様へのお願い事項を記載してございますので、ご一読頂きますようお願いいたします。ご不明な点などございましたら、お近くのスタッフまでお声かけください。

よろしゅうございましょうか。それでは、まず、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況について、熊谷市長、よろしくお願いいたします。

■市長からの説明　テーマ『10年後、20年後に向けたまちづくりの方向性』について

【熊谷市長】

皆様おはようございます。本日は土曜日の朝のお時間からお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。

私も市長に就任をさせて頂きましてより、市民の皆様方の思いを市政に取り込んでいって、そして皆様に、自分たちのまちであり自分たちのまちづくりだという風に思って頂くことが何より重要だ、ということを言い続けてまいりました。

私たちは、千葉市の基本計画、これは千葉市の10年後を目指してどういう風に作っていけばいいのか、それを考える行政の大綱ですが、それをこれから作成することになっております。その作成にあたって、確かに今までも市民の意見というのは聞いてまいりましたが、しかし、大事なことは市民の意見を聞くということ、これは聞き置くということではなくてですね、むしろ、こういうプロセスを通して、市民の皆様方に、じゃあ自分たちが、例えば自分が市長だったとするならば、この10年後、20年後なり50年後の千葉市というのはどういうまちであるべきなのか、そして、その中で市民はどういう役割が果たしていけるのか、そういうことを考える良いきっかけになるんじゃないかという風に、私は思っております。

そういう意味で、今回のこのプロセスを通して、市民の皆様方と行政が、そしてまちづくりが一体となるような、そういう大きな目的が私たちにはございます。そのような趣旨で、

今回は各区で、まずはやらせて頂こうということです。本当はもっともっと細かい単位でもやっていきたいんですけれども、まずは各区１箇所ずつやらせて頂いて、市民の皆様方の率直な千葉市の将来に対する思いをお聞かせ頂いて、そして意見交換をしていこうと、そういう趣旨で今回お集まりを頂いております。

それでは説明に入ります。

まず説明の流れですが、基本計画というのはそもそもどういうものなんだということを、まずお話申し上げたいと思います。

そしてそのあと、基本計画を作るにあたって、そもそも千葉市が今どういう状況にあって、これからどうなっていくのかという基本的な情報を共有しなければ、議論がかみ合いませんので、２番目には本市を取り巻く状況について、お話をさせて頂きます。

そして３つ目に、財政のお話をさせて頂きます。どんなまちづくりをするにしても、福祉を充実したい、子育てを充実したい、経済をもっと発展させたい、いろいろな思いはあろうかと思いますけれども、予算は限られております。いままでは予算が毎年増える前提でしたので、いろいろな要望を汲み取って、あとはどう配分するかでありましたけれども、これから予算というのはほぼ限りがある、増えないというのを前提にすると、どういう風に重点的な配分をしなければいけないのか、ということになります。この千葉市のお金の動向が今後どういう風になっていくのかということについても、お話を申し上げたいという風に思います。

そして、４つ目に、最後になりますけれども、これからのまちづくりということで、どういうまちづくりにしなければいけないのか、地域主権・地方分権が叫ばれている中で、市民に直接接している市というものが、どういうことをこれから目指していかなくてはいけないのかということについてお話を申し上げ、そのあとは皆様方との意見交換の中で、われわれも活発に意見交換をしていきたい、そういう風に考えております。

まず、基本計画とは何ぞやということをご説明します。

ちょっと細かいんですけれども、行政というのはある程度計画性をもってやりますので、さまざまな構想・計画がございます。

簡単に申し上げますと、まず、市の基本構想ですね、これはもう本当に大きなビジョンであります。そしてこの基本構想の下にですね、「ちば･ビジョン２１」という基本計画があり、これが中長期的なまちづくりの方向性を示したものです。そしてその下に、「５か年計画」という形で、具体的に予算にどう落とし込んでいくのかという計画を策定します。これが今までの千葉市の流れでございました。

今回はこの計画期間、平成 13 年から 27 年の 15 年間において、昔に作ったこの「基本計画」が、もう現実とだいぶ合っていないところがございますので、ここを見直していこう、そのもとで実施計画を作っていこうということでございます。この実施計画についても、やはり５年というのは、今の時代の早い流れからすると、どうしても現実的ではなくなりますので、３年ぐらいでやっていくべきだろうというのが、これからの新しい考え方でございます。

これもちょっと難しいので、あまり詳しくみる必要はないのですけれども、基本計画の策

定にあたって、われわれが何を考えていかなくてはならないのかということです。
まず、一番大きなことは、人口減少社会の到来ということで、今までの日本の歴史の中で、人口が減っていくというのは経験しておりませんので、あらゆる行政の常識だったり、行政だけに限らない、すべての常識が変わってまいります。そういう意味におきましては、人口減少社会をそのマイナスを消してプラスに変えていく、ということが求められます。
それから地球温暖化、それから分権型システムということで地域主権、地方分権が進んでまいります。そして、少子高齢化。そして、そういう人口減少や少子高齢化を考えると、集約型都市構造、コンパクトシティとよく言われているものですが、人口が減っていくということは、今までのように郊外型のまちづくり、郊外型のショッピングセンター、そういったものというのは少しずつ成り立たなくなってまいりますので、コンパクトという考え方が必要になってまいります。
そして何より、市財政の悪化ということで、財政も今までのような自由度がない、こういう中での基本計画の策定になる、ということでございます。

先ほど説明したことと少し重なるのですけれども、基本計画については、27 年度までを計画していたものを、ちょっともう無理だと、だいぶ見直しをしなければいけないということで、「新基本計画」というものを作ります。これは、平成 24 年度から 33 年の 10 年間の計画でございます。
主な日程としては、10 月に策定本部を作りました。11 月、12 月はタウンミーティングをやらせて頂きます。タウンミーティングだけでは議論も深まりませんので、さらに来年の１月から５月にかけて、市民の皆様方のワークショップですね、もっとフランクな場で意見を出し合いながら詰めていくものを行って頂きます。
そして８月に計画の原案を作成させて頂き、ここからいわゆる有識者の方々、専門家の皆様方を交えて審議会を立ち上げまして、来年の２月までご議論を頂きます。
そして４月に、ある程度計画が定まってきたところで、パブリックコメントという広く市民の皆様方に自由に意見を求める手続きをやりまして、６月に基本計画の策定と、こういうような、ちょっと長いんですけれども、これだけの時間をかけてですね、市民の皆様方の意見の集約をしていきたいという風に考えております。
一番大事なのは、冒頭で申し上げたとおり、これを作っていく過程の中で、多くの市民の皆様方より、まちづくりについてお考えを頂くということが、私にとって一番重要だという風に考えております。

次に、本市を取り巻く状況について、お話をさせて頂きます。

ここには、先ほど申し上げたことを書かせて頂いております。

まず、千葉市の人口はどうなっていくのかということです。
千葉市の人口は、今までずっと増えてきました。特に千葉市というのは、県庁所在地の中で、人口の伸びが最も大きい市でございます。そういう急激な右肩上がり、まさに日本の右肩上がりの象徴であるこの千葉市が、これから人口が減少する、これは非常に重要なポイン

トであります。
　われわれも当然、人口が減らないようにさまざまな対策というのをやってまいります。けれども、人口はいずれ減っていくだろうと、今の見込みですと、平成 27 年の 97 万人をピークにそこから下がり続け、平成 47 年には 88 万くらいになるであろうと、そういう推計になっております。ちなみに現在は、95 万 6 千人くらいという状況でございます。

　もう一つ大きなポイントは、ご存知のとおり、高齢化でございます。高齢者の比率、65 歳以上の方の割合というのが、平成 17 年から 10 年間で、16.6%から 25.1%へ急上昇いたします。さらに平成 47 年には、33.2%にまで上がってまいります。
　それと同時に、生産年齢、いわゆる働ける方、15 歳から 64 歳の方ですが、この生産年齢の比率というのも、減ってまいりまして、ゆるやかに減少に転じていくというようなことになりますので、若い方が少なくなる、それは結果的に税収もある程度落ち込んでくる、ということです。
　そして高齢の方が増えるということは、ある程度、医療費ですとか介護費ですとか、さまざまな福祉のためのコストが、ある程度増えてくるというようなところがポイントでございます。逆にいえば、元気な高齢者の方々が、今までのいわゆる高齢者の枠組みを外れて、まちづくりにいかにご貢献頂くか、ご協力頂くかということも、大きなポイントになってくるというところでございます。

　ちょっと細かいグラフですけれども、今までずっと全国レベルで、社会保障、介護医療とかそういった社会保障費が、どれくらい増えてきたんだというような話でございます。見て頂ければわかるとおり、急激に増えています。
　高齢化の進展にともなって、増えてきているというような状況でございまして、ちょっと見にくいんですが、この緑の折れ線グラフが、国民の所得に占める社会保障費の負担割合になっておりますけれども、これを見て頂ければわかるとおり、これも上がっている、上昇カーブになっています。一人当たりの社会保障費、社会を支えるシステムを維持するための費用の割合が、これからも高まってくるということでございます。

　それをならしたのが、この棒グラフです。年金もそうですし、医療も増えております。そして、福祉も増えていくということで、当然のことながら、高齢化にともなってこうした費用が増えてくる。これは国でも県でも市でも、同じような状況になります。

　千葉市の財政状況についてですけれども、千葉市は政令市に移行してから、道路ですとか下水道ですとか、そういう都市基盤を急速に進めてまいりました。政令市に移行したのが比較的遅い状況ではありましたけれども、少なくとも例えば下水道については、政令市の平均位にまで達しておりますので、そういう意味では、相当、急激に進めてまいりました。
　その分借金がこのように急激に跳ね上がってきて、1 兆円を超えるという状況になっております。そして平成 22 年度、来年度の予算では、大幅な収支不足、お金が全然足りないという、本当はもっと必要なのに収入が足りない、というような状況になっております。
　これは、今までもお金の足りない局面はあったわけなんですけれども、そのときは基金で

積み立てているところからお金を借りる、というようなお小遣いの前借りをやったりですね、もしくは借金をしていくというようなことをやっておったんです。

けれども、夕張市が破綻してから、地方財政健全化法というものを国が作りまして、ある程度自治体が借金をしすぎるとですね、イエローカードなりレッドカードを出すという仕組みになりました。そのイエローカードに値するものが、早期健全化団体、早く健全にしないとだめですよ、というものです。

千葉市はこのまま何もしなければ、平成24年度に、実質公債費比率、これはちょっと難しい言葉ですが、これが25%を超えてしまい、このままいくと、全国紙の一面に「大都市で千葉市が初めて早期健全化団体に転落」みたいな記事が出てしまいます。

そういうことになってしまうと、たとえいいまちをつくっていても、他の市から引っ越してくる人が減っていったり、もしくは、逃げていく人も出てきてしまうかも知れません。ですので、これからは財政の健全化というのが、何より大事になってくるということでございます。

具体的に、財政健全化をどうしていくんだ、というお話でございます。

ご存知の方も多いと思いますけれども、先月、私は「脱・財政危機」宣言というものを出させて頂きました。財政非常事態宣言なり財政危機宣言というのは、他の政令市でも過去に出されております。もうこのままいってはだめだから、非常事態宣言をして、聖域なき改革をする、というようなものを、川崎市であったり広島市であったり、さまざまな市がそういうのを実施しております。千葉市は今までとっておらなかったわけですけれども、千葉市は実質的にはその政令市の中でもきわめて厳しい状況に陥っておりますので、財政危機宣言が必要だろうということです。

ただし、千葉市がちょっと違うのは、首都圏の政令市ですから、比較的収入基盤が安定しているんです。そういうところも含めて、過去の借金返済がピークにきているものを乗り越えれば、十分に脱出することができるという見込みがあるという意味をこめて、「脱」という文字を頭につけさせて頂きました。

収入の増加策として何をやるかというと、まず、税金をちゃんと取らせて頂くということです。千葉市というのは、実は政令市の中で、最も、本来お金をとらなければいけない人からとっている率が低い市であります。昔はもっと低かったんですね。それだけ徴収に対して徹底的にやってこなかった。それは、まじめに払っている人が過重な負担をしていた、ということでもあります。本来払ってもらわなければいけない人が払っていない分を、真面目に払っている人が負担をしていたということですから、この徴収率を向上させれば、そのまま増収になりますから、ここをちゃんとしていかなければいけないと思います。もちろん、お金が払えない人に対して、ちゃんと分割払いにしたりとか、場合によっては減免措置をするとか、そういうきめ細かいものはやらなければいけませんけれども、少なくとも、払えるのに払っていない人に対してちゃんと取る、そのための組織、体制を作っていくことが重要です。

そして保有資産、持っている資産で売れるもの、手放せるものはどんどん活用したり売却をしていくということです。

それから、受益者負担の適正化です。これはですね、千葉市は、なぜこれが無料なんだろうかという施設が、いくつかあるんですね。私はお金をいきなり跳ね上げるつもりはありませんけれども、下水道にしろなんにしろ、実は政令市の中でも安いほうだったりします。もしくは、たとえばコミュニティセンターが無料だったりとか、最低限のお金を取るべきじゃないかと他の市の状況を見ても思われるものを、取ってなかったということがたくさんありますので、お金を取りすぎるようなことはいたしませんけれども、しかし、少なくとも不公平が生じないように、そこを使った方にはそれなりの負担をして頂く必要があるだろう、というようなところでございます。

そして、われわれ自身として何をやるかというと、人件費の見直しでございます。市民の皆様方にある程度の我慢をお願いするのであれば、やはり自分たち自身が率先して示していかなければならないと思っております。私や副市長の給料は、既に９月の段階をもって大幅に引き下げをさせて頂いておりますけれども、私や副市長がいくら頑張ってもたかがしれております。われわれは少なくとも、ある程度人件費については見直しをしていかなくてはいけないだろうと思っております。

それから、民間機能の活用ということで、民間でできることを行政がやる必要はないと、行政がやらなくてはならないものに極力お金を重点的に投資していくためには、民間でもできるもの、民業を圧迫しているものに関しては、極力民間の方々にお渡しをしていくということが必要になると思っております。

それから、国でも言われておりますけれども、外郭団体を極力見直していかなければいけません。役割を終えたもの、もしくは役割が重複しているもの、もしくは民間でできるようなことをやっている外郭団体、そういったものの見直しをしていかなければなりませんし、そこに市役所の幹部ですとか、OB の人たちが行っておりますので、そういったものについても、見直しをしていかなければいけません。別に私は、OB が外郭団体に行くことをすべて否定しているわけではありませんが、少なくとも、絶対に必要な優秀な人たちだけが行くべきであって、OB の人たちを受け入れるために外郭団体が存在しているわけではない、という原則をもう一度確認する必要があるだろうということです。

それから、事務事業の徹底した見直しということで、いま国でも事業仕分けというものが、昨日ですか、終わりましたけれども、千葉市でも 10 月の終わりから 11 月にかけて、事業仕分けに近いものを行いました。外部の方々に、担当者からヒアリングをして頂いて、これが必要なのかどうなのか判定をして頂きました。国とちょっと違うのは、傍聴者も意見が言えるようにした点です。国でもよく言われているとおり、関係者の皆様方の意見もちゃんと聞かなくてはいけませんから、何が対象になっているかを事前に出したうえで、メールやファックスなどでも意見を募集しましたし、当日来て頂いた方には３分限定ではありましたけれども、意見陳述の場を設けさせて頂きました。44 事業について見直しをしたんですけれども、頂いた市民の皆様の意見は 600 件を超えております。そういった意見ももとに、われわれはこれから予算編成の中で、そういう受益者の方々の心情も理解したうえで、どういう風に見直しできるかという、現実的なところをとっていきたいと考えております。

それから建設事業の厳選ということで、お金に限りがありますので、建設事業もある程度選んでいかなくてはいけません。われわれの考え方は、もう少ししたら道路が供用できるとか、もう少ししたら効果を発揮できる、そういったものにお金を重点的に配分して、例えば、

用地の買収率が５％だとか、まだまだ何十年先になるようなものについては２、３年でも少し止めてみる、もしくはそもそもこの道路が本当に必要なのかということを、もう一度見直しをしていく、そうしたものをしていこうと考えています。

こういう考え方のもとで、今、来年度を初年度とした行政改革推進プランという具体的な改革プランを取りまとめたものと、そしてもう一つ、財政健全化プランという、どういう風に具体的に財政を健全化していくかについて、策定しているところでございます。これはそれぞれ年度末までに策定して、明らかにしていく予定になっております。

先ほど申し上げた行政改革推進プランというのは、来年度から平成25年度の４年間を計画期間とし、例えば計画的に財政を運営していくとか、簡素で効率的な、スリムな運営をしていくとか、財政基盤を強化する、苦しいときにもちゃんと収入が入ってくるような体質を作る、それから市民の皆様方と一緒になって、そして市民に信頼される行政を作っていきましょう、情報を公開したり、こういった取り組みを数多くやっていきましょうということです。

それから、市民の視点に立った行政サービスということで、市民の人たちが本当に求めているような、そういうお役所を目指そうということです。市民の役に立つ所と書いて市役所と読むわけですから、もう一度、役に立ってるねと言われるような、行政サービスを実現していこうということでございます。

それから、新たな執行体制ということで、そういう市民の目線にあった行政を確立するためには、より現場重視の、現場の声と接するところに意思決定の権限を持たせていく、営業現場に権限を持たせていくようなものでございますけれども、そういう本庁側の机のデスクで決めるのではなく、現場で決められるような体制にすることを考えます。

それぞれの区役所、これが最も本来は市民に近いところにあるわけです。ここは中央区ですから市役所が近いですけれども、たとえば若葉区や緑区や花見川区の人たちは、本当に千葉市の中心に来るだけでも大変でございますから、そうした人たちの意見が吸い上げられるようにしたいということでございます。

そして何より人材の育成でございます。すべての施策をやるのは、まずは職員でございますから、職員の能力でありモチベーションであり意識というものが、何より大事でございます。民間を参考にしながら、ある程度、成果をちゃんと考えて評価をされるようなもの、もしくは年功序列型ではなくて、ちゃんと能力がありやる気があり、そして市民の目線に立っている人を登用していくような、そうした取り組みを進めていこうというのが、この行政改革推進プランの考え方であります。

ここまで駆け足で、千葉市の状況をお話申し上げてきました。これからのまちづくり、ここが本題でございます。

最初に、今までの行政がどうであったか、もしくは地方と国との関係がどうであったかということをお話します。これは、まず国がやる。そして国がやらない、やりたくない、やれないものを県がやる。そして県がやらないものを市がやる。そして市から地域コミュニティや市民に対してまたお願いをしていくという、上意下達型だったと思います。

今、国で地方分権の話もされておりますけれども、あの地方分権の話も、私にとってはち

ょっとおかしいなと思うわけです。あれは、国が今やっているもののうち、どれを地方に落とすのかという議論をしているわけです。私は間違っていると思います。本来、国、県、市が今やっている事業を、もう一度ゼロから考えて、すべての事業をもう一度、全部市がやるんだという考え方のもとにまず立って、いややっぱりこれは市がやらない方がいい、もしくは市ではやれない、そういったものを県がやる、そして県ができないものを国がやる、というように、本当は逆の発想でやらなければいけないと思っております。

それがここに示した考え方です。目指す姿はこうでなければいけないと思います。市民がまずあり、そしてコミュニティがそれを補完していく。そしてコミュニティができないものを、市がやっていく。そして市ができないものを県がやっていき、そして最後に国があると、このように考えています。

地方自治は、本質的には市民自治でなければならないと考えています。まずは市民が決めて、そして市民が汗をかくというのが、21 世紀型の自治なのだろうと考えています。自ら治めると書くわけですから、そういうことであろうと思っております。

そしてそうは言っても、市民の皆さん一人ひとりには仕事があったり、さまざまな事情を抱えておられますので、専門家が必要です。それで、税金によって運営される、役所というものが存在するのだと思います。そういった考え方のもとで、まちづくりをしていかなければならないと思います。

今まではお金もあり、右肩上がりでした。ですから行政にいろんな立場の人が、いろんな要望をとにかく言って、あとは行政がうまく考えてねと、そういう世界だったと思います。しかし、それはもう通用しないと思います。そうではなくて、自分たちのまちを良くしていくために、まず自分たちがこういうことをやっていく、そのやっていく中で、ここの部分はわれわれだけでは限界があるから、ここは市がこういうようなサポートをするべきなんじゃないか、ですとか、そういうようなまちづくりの発想でなければ、私はだめだというように思っております。

ですので、このタウンミーティングで市民の皆様と意見交換をしたいことは、千葉市にこうしてくれというお話も、もちろん伺いますけれども、私が伺いたいのは、10 年後なり 20 年後なりに、千葉市はどういうまちになれるのか、というところでございます。どういうまちにしたいのか、どういうまちを自分たちで作れるのかというお話を、こういう場でしたいと思っております。

この千葉市の特徴、そして千葉市の強み、そうしたことを考え、この千葉市に来る、住む、そういう魅力をどうやったらわれわれの千葉市民の総力を結集して目指していけるか、ということだと思います。予算には限りがありますので、観光都市、何とか都市、ですとか、全部目指すことはできません。一体どこに千葉市は拠って立っていくのかと、都市間競争の中で、どう戦っていくのかと、そして住んでいる人たちに、どういった所が特に満足できるのか、そのためには千葉市にどういった魅力があり、潜在能力があり、他市にはない魅力があるのか、その発見と追求が重要だと私は思っております。

どのような分野に力を入れていくべきとか、行政と市民との関係性において、今まではこうだったけれどもこう変えなければならないとか、そのために具体的にこう取り組んでいかなくてはいけないとか、そういったお話し合いがしたいと思っております。

この千葉市の特徴、そして千葉市の強みに、どういったものがあるかでございます。

まず、東京都心に近く便利であるということです。千葉都民と言われておりますけれども、東京に通勤可能な距離にあります。

そして気候が温暖で住みやすい。ちなみに、千葉市にずっと住んでいるという方、どれくらいいらっしゃいますか。結構いらっしゃいますね。そういう方とお話をすると、意外とこの気候がいいというのを、強みだと認識されていない方もいらっしゃるんですね。私はいろいろなまちに住みましたけれども、このまちほど、夏も涼しく、冬も暖かく、温暖に過ごせる場所というのはそうそうないんです。これはなかなかはっきりとデータでは示せないものですから、少なくとも他市には発信できていません。住んでいる方は実感としてあるかもしれませんけれども、他市の人たちには実感としてありません。しかし、これは住む上で実は一番基本的なところでございます。私はここをもっとアピールするべきだろうと思います。365 日生きているわけですから、その 365 日をいい環境のもとで生きることが何より大事ですから、この気候の素晴らしさを、私はちゃんとある程度データ化して、説得力のあるものとしてアピールするべきだと思っております。

そして、海があります。私も昨日、私の会社の元同僚と会って話をしていたんですけれども、そのとき「家を買ったよ」と言うので「どこで？」と聞いたら「埼玉」と言ったんですよ。なんで埼玉に住むんだと、東京の会社に行く距離は同じじゃないかと、千葉には海があるんだよと、そういうことを盛んに言ったわけですけれども、この海というのは引っ繰り返ってもできませんから、魅力をどれだけアピールできるかが大切だと思っています。千葉市は海に面していますけれども、残念ながら、あまり海を感じはしません。私は神戸市民だった時期がありますので、非常に違いがあります。もちろん千葉と神戸というのは、海の形、それから港湾の役割が違うわけですけれども、しかし、もう少し私は、この海というのを活用すべきだし、アピールするべきだということを思っています。

そして、安心安全な生活ができることです。東京の本当の意味での都心とは違いまして、ある程度ゆとりがあります。そして、安全安心がある程度確保できる。逆に言えば、安全安心をもっと高めていかなければいけないという観点にも立てると思います。そして、豊かな自然にも恵まれているということで、政令指定都市でありながら市内にゴルフ場もありまして、ゴルフ場が自然かというと、ちょっと語弊があるわけですけれども、若葉区、緑区には森が非常に豊かにあります。こういったものについて、もっと千葉市に住んでいる人たちが、気づいて魅力を感じてもらいたいし、住めば、こうして子どもたちと一緒に実りある週末ライフを送れるということも、アピールするべきだと思っています。

主な観光資源としては、幕張メッセがございます。この幕張メッセは、市民があまり活用し切れていないと思います。この幕張メッセに行けば、世界的に先進的なものに触れられるんですけれども、意外と、この幕張メッセを利用しているのは市外、県外の人、もしくは国外の人がほとんどだったりしますので、私はもっと幕張メッセというのを、市民の皆様方に身近に感じて、こういう世界的な国際展示場が千葉市にあるということについて、もっと味わってほしいなと思います。東京モーターショーなどというのは、まさに世界の自動車に関する、最近は自動車を越えて先進的な技術の見本市になっておりますけれども、そういったものも味わってほしいなと思うんです。この中で、東京モーターショーに行った方って、ど

れくらいいらっしゃいますか。５名くらいですね。結構面白いですよ。昔は確かに走り屋さんが喜ぶようなイベントだったかもしれませんが、今はエコの技術が今後どうなっていくのかというのを、まざまざと体感できる非常に面白いものになっていて、しかも最近、若干人気がかげって比較的空いておりますので、そういう意味でもいいと思います。

次に花火大会ですね。それからポートタワーがあります。それから動物公園です。意外と、風太くんが千葉市にいるということを、知らない方が多いです。市内の方もそうですし、市外の方もそうです。もったいないなと私なんかは思うわけですけれども、こういうものについても、ちゃんとアピールするべきだと思います。これは結構な税金を投入しています。ならば、これをもっともっと資源として私たちは貪欲に活用しなければいけないと思います。

そして、ロッテとジェフがあります。ジェフは２軍に落ちましたけれども。野球とサッカーのプロチームが同じ市にあるというのは、なかなかないことです。これを私たちは、普段の中でも活用すべきだし、市外、県外の人たちにもアピールしていくべきだろうと思っております。

それから、市民の生活環境に対する実感です。これは参考程度にして頂ければと思いますけれども、これは、食料品など市内で満足のいく日常的な買い物ができる、お買い物便利だよということについて、76.9％の人が満足だというデータです。それから、市内に住み続けたいというのが 70％で、花や緑が豊かだというのが 60％、街並みに愛着がありますという方が 56％、東京に行かなくてもショッピングや食事など十分に楽しんでいますというのが 56％となっています。これは比較的いいデータだと思います。

次に、満足度が低い項目です。まず、市内に働く場所がたくさんあるかというと、13.9％ですから、働く場所はあまり市内にないよと市民は思っていらっしゃるということです。

それから、高齢者に対する福祉サービスが充実しているか、が 19％です。これはですね、結構難しいところがあって、お金が無尽蔵にあればできるかもしれませんし、一体この方々がどこまでのレベルのものを求めていらっしゃるのかにもよります。ここはですね、正直難しいところではあると思います。充実させて、ここを上げなければいけませんが、しかし限界があるという事実もあります。

それから、市内の道路で安心して車を運転することができる、が 20％です。ちょっと低いですね。しかし、千葉市は他の市に比べたら、はるかに道路は充実しています。だからこんなに借金抱えているわけですけれども。そういう意味において、ここがどうすれば上がるんだろうかというのも、われわれの研究テーマであります。他市でもこういうデータが出ているのかもしれませんね。道路については、いつまでたっても満足できないのだとも思います。

それから、子育て支援サービスは充実しているか、これは小学生以下の子供と同居している市民の方々に子育てサービスについて聞いたのですが、これが 21％です。これも、われわれはこうなった理由の解析をしなければいけないだろうと、一体何がまだ満足できないのか、何がどうなればいいのかというところ、そこをやっぱり考えていかないとですね、お金を無尽蔵に注ぐことはできませんので、そういったところも考えていかなければいけない、しかし、少なくともこういうデータが出ているという事実があります。

そして、消防防災体制が整っているか、が 22％です。私は神戸にいたとき、阪神大震災で

被災しております。そのときの実感を申し上げますと、大規模災害が起きたときは、消防局の人間というのは、なかなか手が回りません、はっきり言って。例えば自分の家の目の前がつぶれて、そこに生き埋めになっていますと言っても、なかなか来ないです。そういう時に、どれだけ地元の消防団や、地域の防災組織が整備されているか、していないかで全然変わってきます。それから、自治会がしっかり機能していれば、被災したあとの復旧作業や、さまざまな支援物資の配給などがスムーズにいきます。本当に、大規模災害では地域力の差が如実に出てまいりますので、そういう意味においては、私は、ここはもっともっと向上していかなければいけないと思います。消防団の数も、地域の防災組織も、増えてはおりますけれども、しかし、本当の意味で実効性のあるものにしていかなければいけないと思います。個人情報保護法についての変な解釈があって、なかなか今、個人のお宅がどういう状況になっているのか、自治会とかそういう方々がなかなか伺い知れなくなっていますけれども、私はそれをそのまま認めていったら絶対にいけないと思います。個人情報を人命のために使うのであれば、本来許されている法律でありますけれども、なぜか個人情報保護法は変な形で誤解されていますので、もう一度横の連携というのが必要だということを、私はこの千葉市において確立していかなければいけないと思っております。

これでスライドは終わりです。ここまでが千葉市の生活環境に対する実感ということでした。こういう基本的なデータなり、話を前提にして、これから時間がたっぷりございますので、皆様方と意見交換をしながら、じゃあ千葉市がどこに税金を注いでいくべきなのか、もしくはどこを市民が頑張ることによって、税金が浮いて、そのお金を別のところに回していけるのか、もしくは千葉市が他市に対してどういうイメージ戦略でやっていくべきなのか、そのあたりのことを含めて、お感じになっていることを、お話していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■意見交換

【鈴木企画調整局次長】

これからのお時間は意見交換となりますけれども、できるだけ多くの皆様にご発言頂けますよう、恐れ入りますが、お一人様３分程度を目安に、簡潔にご発言を頂けましたらと存じます。また、ご発言の前にお名前を頂きたいと存じますので、よろしくお願いいたします。それでは市長よろしくお願いします。

【熊谷市長】

では、トップバッターをやるぞという方、お願いします。

【市民Ａ】

真っ先に手を挙げる、それが私の役目だと思っておりました。

税金を何に使うのかという話ですが、市民の望む税金の使い道を決めるにあたって、市民権を反映させるシステムづくりが、まず大事だと思います。市民には赤ちゃんから高齢者までいますが、市民が参加して、市民の声を千葉市政に活かすシステムづくりです。市民参加条例を見直すということですが、私は子どもに関わる活動をしていまして、子どもの声をどう吸い上げて千葉市政に活かすかを考えています。

子どもの力フォーラムとか、中高生座談会を計画されているとのことですが、子どもは本当に大勢います。その子どもが住んでいる地域で、家庭、学校、地域社会の中で、子どもの意見を出せる場、出せる関係性、子どもに対する了解事項が必要だと思います。これは、子どもの権利だと思います。子どもは、保護、支援が必要な存在ですが、一人の人間として、大人と対等の存在として、一緒に家庭をつくる、学校をつくる、地域をつくるですとか、子どもの権利の基準に立って、そういう関係性を千葉市内のあらゆる場面で作っていく、その声を出せるシステムをつくることが大切だと思います。それが千葉市政に反映されるということで、10 人、20 人の意見では、それだけのものになってしまうと思うんです。子どもが声を出し続けられる、そのシステムづくりとして、子ども条例をぜひ作ってほしいと思っています。子どもの意見を市政に反映させる面もありますし、こどもの SOS を受けとめて、それを届けられるシステムづくり、それを受け止めて、調査、調整、救済までを行うシステムですとか、参加と救済の両面が必要だと思っています。市民参加、子ども参加、それと人権救済のシステムづくりが大切で、どういうまちを作るか、その形を作るためにも、システムが必要だと考えています。

あと、県の次世代育成支援行動計画のプランづくりに参加しまして、「こどもが大切にされる千葉県をつくるための指針」がまとまり、県のホームページで公開されていますので、これを見て頂いて、ぜひ千葉市で活かしてほしいと考えています。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

関連する質問を受けてから、お話したいと思います。市民参加が必要じゃないかというお話と、子どもの参画と救済をどういうふうにシステムとしてやっていく、ということについて、提案がございました。これに対して、自分もこう思うという方いらっしゃいましたら、挙手をして下さい。

【市民 B】

73 歳になりますが、私の郷里は、北海道旭川です。36 年に千葉に来まして、先程市長さんが言われた温暖、確かにそうですね、千葉に住むつもりはなかったのですが、たまたま雨宿りしたら、もうそのままで 40 何年住んでいます。

私も自治会長、あるいは少年野球、ボランティアなどにたくさん関わっていますが、町内会を自治会にしまして、自ら防災に対してもきちんとやろうとしています。自治会を運営していますが、その管理費は一所帯 500 円です。僕のところは 100 所帯くらいで、先ほどの方の白旗は 600 所帯で大きいですが、財源にしてもなかなか厳しい中で運営しています。

政治にも少し関わったことがありまして、ずっと、昭和 25 年からの状況を、荒木さんの時代ですとか、いろいろと見てきました。仲間が市長に立候補したり、いろいろやりましたが、その中でも色々指摘がありまして、福祉に力入れるべきだとか、議員の力を借りず自分でやろうと叫んで、近くで住宅開発された時には日照権の問題を勉強したり、自分の力を持たなければいけないと大変苦労しました。

でも、実際やっぱりお金がないと。福祉でも道路幅を整備するのにも、お金がないとできないわけです。全部とは言いませんが、言っていることとやっていることが違うと申します

か、やはり開発だとか、箱モノ、そういうものから切り替えていかなければならない、と思います。

先ほど、市長、副市長の給料を下げると言われましたが。議員の報酬にしても、これからやるとなると、われわれから見ても市長さんにはたくさん敵がいるし、中央の仕分けと違うから大変だと思いますが、頑張ってほしいと思います。

先ほどのやつで、福祉に対しては低いでしょう。実際住んでいる自分らでやろうとしても、行き詰る道路問題、都市計画道路、京葉道路、16 号線問題などいろいろあり、そんなことで、やはり議員の報酬を下げるべきだと思います。

もっともっと福祉、道路の方にお金を、そして市民参加をというのが、私の意見です。まとまりませんけど、以上です。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございます。

まさに市民参加と自治会は密接していると思うのですが、今、２つ考えなければいけないと思っているところがあります。私も自治会の役員をやっておりましたので、自治会が今までずっと、基盤として相当な役割を占めて頂いていたことを理解しているつもりです。その自治会も、若い人がだんだん入ってこなくなりましたので、それに対して後押しをしながら、自治会という組織の弱体化を絶対に防がなければならない、という思いがあります。

もう一つは、自治会に代わるさまざまな組織と自治会との連携による、その地域の声を上げていくシステムの再構築が重要だと思っています。昔は自治会だけでしたが、今は自治会、PTA、NPO など、さまざまなものが地域にあります。そうしたものを全部、その地域のまちづくりを考えていく団体として、行政としてもどう位置づけをして、連携していくのか、そこが問われてくると思います。

新潟市などは、中学校区単位くらいで自治体、保護者、NPO、地域団体、市民団体、いろんな団体が入った中で、議事運営をしてそのまちの方針をある程度決めていく、ということをやっています。少なくとも、地域の意見がある程度代表されるフィールド、場所をどういうふうに作っていくかということも、大事だと思います。また、それに関わらない人たちが、直接市に意見を言える、そういう市民参加の手法も大事だと思います。

ここの部分を、われわれとしてはいつも考えているわけですが、このあたりについて何かご意見ありましたらどうぞ。

【市民 C】

今、非常に集合住宅が増えておりまして、自治会も少なくなって、活動も弱くなっていますが、集合住宅には管理組合がありますね。この管理組合は、素人が集まって規約を作って、住んでいるんですね。コミュニティというよりは、建物の修繕なんかを中心にした管理組合というのがほとんどなんです。この部分が今、まちづくりの中で、非常に欠けた部分になっています。だから子どものことも、老人の問題についても、コミュニティを作る時に、集合住宅におけるコミュニティ、これにはやはり現場の声が市役所まで届くというのが一番良いのですが、管理組合の役員さんは、ほとんど素人が当番制でやっていて、プロはいないんですね。何か問題が起こった時は、マンションの管理士さんにお願いするのですが、これはよ

くよくの場合にお願いするような状態になっています。

現場の声を吸い上げるためには、マンションの管理士さんをもっと活用して、例えば、千葉市でこれから始まるまちづくりの講座などには、こういうところに、学識経験者ではなくて、現場をわかっている警察、消防、マンション管理士さんなどを活用して、まちづくりをするのには、ちょうど良い機会になるのではないかと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。まだ２名の方がお手を挙げて頂いておりますので、まず奥の方からお願いします。

【市民Ｄ】

千葉市が地域福祉計画を策定する時に２年間、策定委員会と美浜区の推進協議会の委員長をやらせて頂きました。

美浜区でも自治会の加入率が落ちているわけですけれども、まちづくりという視点は大切だと議論がありました。最近、打瀬では自治会の加入率が５割を超えたと聞いております。自治会の取り組みについて市民の声があがってきた時に、例えば自治会サミットみたいな形をして、問題に悩んでいるところについてのフォーラムを、自治会の連合会のようなところでやっていけば、普及していくのではないかと思います。

それともう一つ、地域福祉計画を策定する時に、美浜区で 63 名の地域フォーラム委員に出て頂いて、市でアンケートを取って頂きました。39 の取組項目をまとめたうち、６つ位が災害に対するテーマでした。テーマに取り組んで、さあこれからプロジェクトを作って推進し、となった時に、推進協議会は担い手ではなくプラットフォームと言われ、足を踏み出す方向性を打ち出せなかったのが、当時の市の保健福祉局の考え方であったように思います。その時、テーマが市民から上がってきた時には、それを真摯に受け止めてほしいと感じました。

市長が先ほど言った方式は、地域福祉計画を作る際に一定程度、作り上げてきています。この財産を、組織論として定義してほしいと思っています。

合わせて感じたのは、千葉市保健福祉局長が 2003 年に各区は自治体規模だと、自治体の機能を持たないとダメだと言うことで、地域福祉計画を区単位に下ろしたのに、今の千葉市において、区は本庁からの出先機関であり、市民になかなか寄り添わないということがあります。

地域福祉計画を作った時に感じたのは、高齢化や少子化が進むと、テーマは日常圏域に限られることが多くなるのですが、これは 800m くらいの行動範囲なんですね。ところが千葉市には、日常生活圏域、そこに手を差し伸べる各区の区役所の役割がない。長く箱物行政をやって来たため、縦割り行政になっており、各団体も縦割りになっていると感じています。民生委員、自治会、社協などは頑張っていますが、横の連携で地域の問題を議論していないから、縦で一生懸命頑張っているだけで徒労に終わってしまいます。地域で、日常生活圏域でそういう問題を議論した時、協議する場づくりと合わせて、それを支える行政のサポート機能を強めていくことが必要だと思います。

千葉市が一人暮らし高齢者のための、安否確認のモデル事業をやるというのは良いと思います。約 600 万円、厚労省から出ると聞いています。子育てリラックス館も市民に喜ばれて

います。これも 600 万くらいですか。そうした取り組みが、その位のお金でできるのであれば、寄付の文化をどう育てていくかを真摯に考えるということも、千葉市が財政難であれば必要ではないかと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございました。ではもう１名の方、お願いします。

【市民 E】
子どもの頃から千葉市で育ち、愛着を感じております。まちづくりの魅力という点で、私は懐かしいもの、古いものをもっと大切にすべきというふうに考えております。
今、自治体は公共施設、文化ホール、空港など自治体ごとに近代化の競争をしているような感じがして、財源があるならまだしも、財源がない中でいろんな物を作って、もっとあるものを活用すれば良いと思います。
私が子どもの頃にあって今ないものを考えると、商店街、銭湯、八百屋、魚屋、どんどん衰退して、今は殆んど残っていないような状況です。
千葉市の中に実は、文化財的なものがあると思っています。数年前まで稲毛にはこじま公園という、とても魅力的な船の公園があったのですが、今は潰されてしまいました。今あるものでは千葉公園、生浜の旧庁舎、旧千葉市役所など、昔からある魅力的なものをもっと見直して、活用して、発信していく、そういう発想の転換をしていったら良いのではないかと考えております。市長のお考えをお聞かせ願えればと思います。

【熊谷市長】
文化的なお話でしたので、先に自治会、コミュニティの話をしてから、そちらの話をさせて頂こうと思います。
地域福祉計画は、私も稲毛区を傍聴したり、意見交換をして、問題点も含め実感しております。皆さん期待を持って、非常に一生懸命作られて、運営のやり方に失望して、不満を持たれている人が沢山いらっしゃると伺っております。区役所の機能の限界が最終的にあって、いい計画を作ったけれども、そこから先が、という状態になっているのも事実ですので、区役所の強化と合わせて、地域福祉計画のうち、各区に下ろしたものが実効性あるような、計画の実行組織になり得るようなものについて、考えていかなくてはと思っています。
寄付の文化は非常に重要だと思っています。市にお金を下さいというつもりは全くなく、素晴らしいと感じて、今後も充実してほしいと考えているものに対して、市民の皆さんの何らかの支援が必要だと思っていますので、寄付が出るような情報公開や見せ方も工夫をしていかなくてはいけないし、寄付する人がこれだけいるんだという事実も、見せていかなくてはいけないと思います。市長をやっていると、寄付して頂いた方について、決裁が上がって来ます。日常的にさまざまな方より、さまざまな分野で寄付を頂いていると感じていますので、もっとできる範囲の中で、やって頂きたいと考えています。
「財政危機はわかった、では市民に何ができるのか」という話を、何度も伺います。「12 月 15 日付け市政だより」では、ある程度話を取りまとめたものを出させて頂いております。例えば、道路の清掃、公園の清掃、そういったことでも市役所の労力が減る、市役所のコス

トは高いので、確実に別の形で市民に返ってくるという話ですとか、たばこや宝くじをできるだけ市内で買ってほしい、という話も入っております。

市民の皆さんが普段、どのような形で、自分のできる範囲の中で、自分のまちを充実することができるのかということを、われわれも発信していかなくては、と思っています。

自治会サミット、地域フォーラムでテーマを決めてというお話は、仰る通りだと思います。市連協や区連協といった既にある自治会の連合体もありますし、またそれを拡大した形で毎回ある程度テーマを決めて、悩みの共有や、成功した事例の共有なども、もっとやれればと思っています。

マンションがぽっかり抜け落ちてしまうケースもあるので、マンション、集合住宅の管理組合に自治会機能を持ってもらう、もしくは自治会に丸ごと入ってもらうことについて、考えていかなければならないと思っています。

そうしましたら、文化のお話があったので、文化も含めてお願いします。

【市民 F】

いろんな意味で、千葉は環境が良すぎると思います。たくさんありすぎて、恵まれているんですが、全国ブランドの№1 がないんです。埼玉県を見て下さい。海もない、だから市でブランドを作っているんです。深谷ネギとか、草加せんべいとかです。千葉は全国に通るようなものがない。加曽利貝塚をブランドにして商品を作るとか、まちおこしを導入できる部分がいっぱいあると思います。花いっぱいでもそう、「花」じゃだめなんです。チューリップで一番、コスモスで一番、たんぽぽで一番、花をやるって事は日本の住民の心がやすらぐんです。しかも他の町から人が来るんです。そうなると住んでいる人も格好良くしなくてはいけない、皆が争い合うわけです。せっかくいいことやっても全部中途半端、つまり何かと言うと、一番がないんです。戦略的発想をもっと持って頂きたいと思います。

次にマネジメントの問題ですが、地方分権でなく市民分権ぜひやって頂きたいと思います。以前市に提案を出したのですが、サラリーマンの OB で、優秀で暇な人がたくさんいるんです。お金はいらないから千葉のために何かしたい、死ぬまでに何とか市を変えて、あの時あの人が頑張ったから千葉市が変わったと言われたいと思う人は、いっぱいいるんです。そういう人にマネジメントのやり方を聞くなどすればいいと思います。

次に言いたいことは、市の職員が隣の課のことを知らない、ということです。民間企業では、自分の会社のことであれば答えられます。市民に税金を求める前に、カットできるところはいっぱいあると思います。私は、経営にだけは自信があるんです。そういうマネジメントのことを、サラリーマンの OB に聞けばよいと思います。

区長や局長が、２年やったらリタイアという人事はよくないと思います。区長をやって成功した人を局長にするなど、人事制度を変えるべきです。区長権限の強化についてですが、民間の支店長は役員と同じ権限を持って、問題を解決できました。区の地域振興課で聞いたら、全部わかるようにしてほしいと思います。

千葉市の防災パンフレットは、一番よくできています。ただ、同じようなパンフレットを３つも４つも作るのは無駄で、これを一箇所で作れば事業仕分けにもなります。必要なやつはインターネットで、と変えて頂きたい、無駄に発行するなと言いたいです。

【熊谷市長】
お答えはあとでして参りますが、大きなテーマだと思っているのがブランドの話です。何でもあるから何にもない「何なんだ、千葉市」というわけです。
そのことに関して、何かお考えがある方がいらっしゃれば、いかがですか。

【市民 G】
地域ブランドのお話ですが、先ほどの方と反対で、住みやすければ何もなくてもいいのかな、と思います。一村一品運動のようなものを立ち上げて売り出していく、そういうモデルは、少しこれから変わっていくのではと思うんです。
千葉は、住みやすさでいうと、この良さに地元の人は気が付いていないと思います。私は地理の教員なので、全国いろいろ見てきましたが、地元の良さにふと気が付く、それが、地域が良くなるきっかけになっていくのだと思います。ある人が言っていましたが、「よそ者」「若者」「ばか者」が地域を変える、よその人が教えてくれるんですね。そういうところで地域の活性化はできるんじゃないかと思います。
「漬物」なんて始めたって、今は全国どこでも漬物ブランドだったりするわけです。そういう手法を少し変えていくというのも、一つの手かなと思います。あるものを使う、エコツーリズムと言っていますが、再評価する、再認識する、そして子どもたちにも気づいてもらう、そういう仕組みを作っていけたらと思います。
それと、住民の声を聞くには政令市はでかすぎる、できれば、今の仕組みをやめてもらいたいと思います。コンパクトシティという話がありましたが、90 万では大きすぎるのかなと思います。千葉市を見ても、地域の実態はずいぶん違います。区に権限をという話がありましたが、思い切って変えて、きめ細かく、例えば自治会の代表だけでなく、困っている人のところに行って、御用聞きをして頂きたいと思います。生徒でも、大変だと言える子はそこそこ力を持っています。本当に大変な子は、そのまま消えていったりするという現実があるので、そういう立場の人にどういうふうに声を聞きに行くのか、という仕組みを工夫して頂きたいと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございました。それではもう 1 人、奥の方にお願いします。

【市民 H】
10 年後の本市がどのようなまちになれるかということで、少し述べさせて頂きます。
市民がどのような役割を担うかということで、市民一人ひとりが情報を共有し、参加、行動することが大事だと思います。地域の特性を踏まえ、自らの決定と責任に基づいた強いイメージを持てるまちづくりを進める必要があると思います。どのような基盤が必要かというところで、自分たちのまちづくりは自ら考え行動していく。そのために千葉市と市民の協働を進め、行政と市民がそれぞれの役割に応じ、これからの千葉づくりを担っていくことが必要だと思います。このように、住民主導のまちづくり、自分たちでやれることは自分たちで行うことが必要かと思います。
どのような制度が必要かというところで、市民が共有するまちづくりの基本理念や、目指

すべき千葉市の未来像を市民が一体となって作ることが必要だと思います。そのためにガバナンスが必要だと思います。住民が政策決定に関わる機会を設ける事が必要だと思います。ただし住民の生活に関わる政策についてのみだと思います。

まずは市民との協働によるまちづくりの条例が必要であると思います。条例の名称や条文の表現について、子どもや学生が興味、関心を持てる、理解できるようにすることが大切です。子どもたちの意見を取り入れていけたらと思います。情報の提供の仕組みと、職員の意識改革について、条例に盛り込むことが必要だと思います。情報の共有について、年度ごとに、基本計画に沿った市政運営の内容を評価し、市民にわかりやすく公表することが必要だと思います。

議会については、新しい議会像を持ち、行政と市民と議会が協力して評価する、議会は市民と行政が協力してまちづくりを行う際の、コーディネート役になる必要があると思います。

市民の意見でまちづくりの基本目標を作ることが、重要であると思われます。タウンミーティングやパブリックコメントを行っていくと思いますが、その基本目標を市民の手でつくることが重要であると思います。基本目標として、市民で大枠のテーマを決めて、市民が手作りで条例を作っていけたらと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まずブランドの話ですが、何もなくても良いじゃないか、住みやすければという話がありましたが、「住みやすい」というのは千葉市にとってひとつのテーマだと思います。住環境というのは、千葉市はもっとアピールしていかなくてはいけないと思います。

今までは、首都圏に働く人が、地価が高くて船橋・市川に住めず、押し出されるように千葉市に住まざるを得なかったというのが、このまちが大きくなった一つの要因でした。しかし、少子高齢化で船橋・市川に家が買えてしまう時代になり、一気に引き潮のように千葉市に住む方がいなくなるという、この重大な事実に気付いていない向きが多いと思います。船橋や市川でなく、あえて千葉市に住むんだ、という人を連れてこないと、この千葉市は続かないという危機感を持って、やっていかなければと思います。だから、住環境というのはひとつのブランドだと思っています。

区役所のお話がありましたが、区長が１年、２年で終わるというのは、本当になんなんだろうと思います。区長が部長クラスですが、課長で定年間近の人を部長に格上げして引退してもらうために、部長になって１年、２年でお辞めになったり、区長になって辞めていくというのが多いのです。私は、それは絶対ダメだと申し上げています。58、59 歳で、定年が見えている人に対して、何か大きな事をお願いするのは酷だと思います。これからは 50 代前半のイキのいい、将来局長になるべき人が、ここで現場の経験を積んで、本庁の組織の改革に努めるべきだと思っています。そういう理念で、人選をすべきだと思っています。

隣の課のことを知らないということについて、民間ならば、お客様のところに行って、自分の知らないこと、管轄外の事でも「わからない」とは言わないです。少なくとも、承ることはします。帰ってから聞いて、折り返しで答えますが、行政の人は「それは〇〇課ですから」「私知りません」「引き継ぎを受けていません」と平気で言うんです。私は、そのような体質は絶対に変えなくてはいけないと、強く申し上げております。「市民にとってあなたが市

役所そのものである」という認識を持ってほしいということを、強く言っておりますので、これからも徹底したいと思っています。

パンフレット別々に作っている、全くその通りで、今取り組みを進めております。自治会等に回覧板を回すことをとっても、これは相当な数がありますが、それぞれの課が個別に出しています。今われわれが考えているのは、自治会などの意見も聞きながら、少なくとも渡された側がいらないと思うものを洗い出す、われわれ自身も、配布物については徹底的に見直しをしていこうと思っております。

政令市が大き過ぎるという話がありましたが、だからこそ区があるので、もう一度そこへ立ち返って、区長なり区役所なりが、市の行政と同じように意見を吸い上げて、本庁にモノを申せるような組織を作ることが、まず大事だと思っています。御用聞きみたいなものも、自治会以外のところも回って意見を聞くということが、区長やそれぞれの区役所に求められていると思っております。

条例の文章、子どもでもわかるようにというのは、私自身もそう思います。条例に限らず、市のさまざまなものは行政用語が多過ぎて、とてもわからないものが非常に多いです。そういうものを改めていかないといけないと思います。極力平易な言葉で、究極のところでは条例についても、いずれ平易なものでやっていきたいと思いますし、市民参加条例、自治基本条例、将来は作っていこうと思っております。それについても、普通の市民の声で作る必要があると認識しております。

次は、このテーマに限らずお話を伺いたいと思っております。どうぞ。

【市民Ｉ】

３年くらい前から、千葉市の景観計画のワークショップに参加しておりまして、今回原案ができましたが、ワークショップに出た方にも、一度説明してほしいと思っています。

景観計画の場合は、農地、原野とか、広告規制とか、いろんな面、あらゆる部署に影響してくるわけで、今回の原案ですと、建物の色も出ています。そういう面で、総合的な調整ができる課がやった方がいいのではないか、と思います。都市計画審議会にも住民代表が参加して頂けると良いかと思います。

景観には主観の問題があります。私は新宿一丁目に住んでおりますが、主観で申し訳ないですが、景観を壊しているのは高層マンションだと思います。これはいろいろな意見があると思いますし、住民のエゴでマンションの拒否はしないですが、本来は中層マンションが建てばお互いに幸せだと思います。高層マンションの方も、一度入った後で建替えができなくなりますし、乱立して、新宿小学校など、児童が定員いっぱいになってしまって仮校舎でやっています。学区が変わってしまったという問題もあります。

高層マンションは都市計画にも関連していて、われわれが住んでいるのは近隣商業地域ですから、高い建物は建つのですが、結局マンション業者は売り逃げで、容積を目いっぱい使って売ったら逃げちゃいますから、その後、問題がいろいろ起きています。ビル風やほこりの問題もありますし、管理組合で町会長が苦労したりという問題もあります。

船橋市では現在、高さ制限に取り組んでいます。千葉市も、できるだけ早く取り組んでほしいと思います。主観で申し訳ないですが、住みやすいまちづくりには、ある程度中規模のマンションにすることが大事だろうと思います。新宿一丁目は住宅が多いですが、その中に

ある日突然、大きい建物ができてしまい、マンション紛争が市内で何百件も起きているので、それに対して、市役所で調停などをご検討願えればと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございました。
景観やマンション問題について、ご意見、ご提言のある方はいらっしゃいますでしょうか。

【市民 J】
子どもたちが、今は小中学校、高校もそうですが、果たして豊かな教育を受けられる状態になっているのかと思います。教員からみても、余裕がなくて、ゆったりとした教育が受けられていないんじゃないかと感じます。自分たちの声を、自由に発言できる雰囲気を感じ取っていません。大人社会が正しい答えを匂わせていて、それに沿った答えをすればいい点に繋がるんだという空気を感じ取って、大変な息苦しさを感じている子どもたちが多いように思われます。
千葉市は教育が良いから引っ越したいねとか、住みたいね、子どもの教育は千葉市だね、と言われるような、豊かな教育をやれるような施策をとって頂きたいと思います。20 年、30 年後の未来は、子どもたちが作っていくのですから。

【熊谷市長】
ありがとうございました。
景観の話は、都市のまちづくりそのものに関わってくると思います。高層マンションの話はわれわれも認識しております。高さ規制も今研究していますので、何らかの形で、マンション問題に手を打っていきたいと思っています。新宿の学区については、われわれも頭を悩ませている状況です。いびつなまちができないように、ある程度計画的に考えていかなくてはいけませんし、それはある意味、今までしてきたことの反省だと認識していますので、考えていきたいと思っています。
子どもの部分に関しては、住環境という事を申し上げた以上、教育が優れているのが条件になると思っています。教員の負荷の軽減を考えていかなくてはなりませんし、教育環境の整備に関して、行政なり政治なりがどれだけのサポートをしてあげられるかを、試されていると認識しています。
もし可能であれば、教育や教育環境といった子どもたちに対する考え方など、ご発言されたい方がいらっしゃいましたら、お願いします。

【市民 K】
それでは、教育について意見を述べます。今あるものも見直して活用するとか、住みやすさという点で発想をどこに置くのかが、これからの千葉市にとって大事だと思います。
千葉県の次世代育成計画を見てほしいという発言がありましたが、８年くらいかけて子どもの声を聞きつつ作ったので、参考になると思います。
私がいつも感じていますのは、大人が子どもに対して「おいこら式」になってしまうのは良くない、ということです。経験があるんですが、公民館の図書室の非常勤として働いてお

りましたときに、中学生たちが公民館の庭で騒いでいたんです。館長さんが「おいこら」と言ったら逃げていきましたが、「おいこら」とその場から子どもを散らせても、家や学校ではない別のところに行くわけです。その時に地域の人間として、「どうしたの」と声をかける、そういう目線が必要だと思うんです。

自治会を盛んにしようとか、地域力をつけようという時に、人権を大切にして差別的に扱われないように、あらゆる人、子どもにも人権があるという理解を、それは一銭もかけずに住民ができるのですから、お互いに学習していくべきだと思います。外国人もいっぱい住んでいるわけですから。自治体としての千葉市は住みやすいよ、どんな人も不利益な扱いをされることはないんだ、という理念を大事にする、そんな方向を目指してもらえたら、住みやすい千葉市を PR できるのではないかと考えます。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

子どもの教育の観点から、ご発言されたいという方はたくさんいると思います。

【市民 L】

小学生の子どもがいますが、基礎学力がすごく下がっていると感じています。教育に関心のある人は小１から塾に行かせていますが、そうでない方は全然という感じになってくると、学校の時間数が減っていて、教師の方も時間がなくて、わかる子とわからない子があって授業が成り立たないようになってしまっています。千葉市にとってもそうだと思いますが、教育を充実させていかないと、10 年後 20 年後の未来はないと思います。子どもに投資していくことは大切だと思います。

また、子どもの食の乱れを感じています。両親が働いていて、家でお菓子ばかり食べていたりするので、学校給食の役割が大きいと思います。食文化の継承とか、千葉市は農業がけっこうありますので、地域に対する関心を高めるという意味でも、できるだけ地場のものを使うということを考えていったらいいのでは、と思います。栄養士さんは栄養バランスを考えておいしいものをと考えているのでしょうけど、３回に１回パンです。子どもの頃にずっとそうだと、そういう食生活になります。学校でと考えた時に、まずはご飯にして、それに合うおかずを作る、そういうところできちんと食事を摂る。「このニンジンは千葉で採れた」など、身近なものがあるのは大切なことだと思います。地域に対する愛着や関心が高まるのではないかと、そんなにお金はかからないと思います。地域のことを大切にするということを考えたら、少し変わってくると思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

子どもと教育のお話ですが、もし他にございましたらお願いします。

【市民 M】

子どもたちは、大人の行動をじっと見つめていると思います。大学は東京に行くけれども、卒業したら千葉へ帰って働こうとか、千葉に帰って暮らそうとか、そういう想いを持って子

どもが育つようなまちづくりを、今の大人たちはやっていく責任があると思います。
　数年前に、ある県がしたそうですが、小学校５年生、６年生、それと中学生を対象に、今の大人や親たちの行動を見て「変だな」と思うことを書いてもらい、その結果を参考にして、大人たちがどう改めようかと考えたと、そのようなことを本で読みました。子どもの目から考えたものが中心となって、問題提起をしていくと、そのようなことが大切かと思います。
　来年は参議院選挙があり、その後、国体があります。商店街の売り上げ促進にもつながるかと思いますが、投票済みの券を持って行けば何らかの優待があるとか、そのようなことを商店街の方に考えて頂いて、活性化を図るべきだと思います。ぜひ、政令市の中で№.１の投票率を、この千葉市が記録し、その勢いで国体へ向かうような、何か明るい方向に持っていくようなことを、実行して頂ければと思っております。

【熊谷市長】
　ありがとうございました。次は先ほど手を挙げていた方、お願いします。

【市民Ｎ】
　人が育っていく部分を大切にしたいと、常々市長さんも仰っています。私は、教育とともにある文化と申しますか、図書館がまちづくりの中心になっていくべきだと思います。
　25 日に千葉市の図書館協議会が開かれまして、今年度中に千葉市の図書館サービスプランを策定すると伺ってきました。その時に、今お話にあるような大事な部分はサービスとしてやっていきたいとのことでしたので、利用する人の身になって、良い図書館というものを考えて頂きたいと思いますので、ぜひお願いします。

【熊谷市長】
　ありがとうございました。次の方まで伺って、私からお話ししたいと思います。

【市民Ｏ】
　私はワークホームの運営をしております。今、市長さんからお話しを伺っておりますと、将来的に財政が大変厳しい状況であると、それに従って事務事業の整理、効率化の話がありましたが、私ども障害者からすると、非常に不安があります。
　まず、今まで千葉市には単独事業として長い間お世話を頂きましたが、それを潰さないように継続して頂きたいということです。タクシー券やガソリン券ですとか、そのようなものを減らすというお話を聞いておりますけれども、不安です。私ども障害者でも、重い方、在宅の方では、個人負担が多くなる可能性があります。もう少し負担が軽くなるような、ご配慮を頂ければなと思っております。
　それと、ワークホームの運営をしております立場からすると、地域支援活動センターというもののお話がありますが、ワークホームの制度を潰さないでほしいなと思います。と言いますのは、ワークホームというのは、学校を卒業した方や学校に通っていない方、自立できない方、そのような方に対して、できる範囲で支援をしていく施設なのです。そこをご理解頂き、潰さないで継続して頂ければと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、障害者に関するお話ですが、事務事業の見直しの中で、福祉タクシーなどが廃止されるというお話でしたけれども、実は、事務事業の見直しの中で、唯一といってもいいですが、これは廃止してはいけないとなったのが、福祉タクシーでした。われわれ自身も、外部評価の意見を受けて、予算の中での反映をしていこうと考えておりますので、若干の見直しはあったとしても、現段階で廃止というのは、考えておりません。私はプレゼンの中でも申しあげましたが、今後高齢者も増えてまいりますので、無条件で何かを配る事業というのは、心苦しいですが無理だというのも、事実です。しかし障害者に関しては、私は、ある程度維持していかなければ問題があると考えています。

それからワークホームに関しては、千葉市の数少ない誇れる事業だと認識しておりますし、今現実に、特別支援学校ですとかを卒業しても就労しきれない子どもたちがたくさんいるという実態も認識しておりますので、そういう子どもたちが、大人になった後も何らかの作業をしながら、生きる意味合いを感じて頂くということは重要だと、われわれは考えております。

それから、図書館の話がありました。図書館は、生涯学習の拠点であるべきだと思っておりますし、私は子どもの学力だけではなくて大人の学力も大切で、だから生涯学習があるのだろうと考えております。学力というのは、別に勉強ができるということではなくて、いろいろなことに関心を持つことが重要だと思っています。このような図書館の意味合いですとか、図書館の楽しさのようなものを、これから市民の皆さんの協力を得ながら、広めていこうと思っています。ここの部分は行政だけでできるものではありませんし、図書館活動をされている団体がたくさんありますので、そのような方々の意見を取り入れながら、図書館のあり方について考えていきたいと思っております。

それから、子どもから見た大人のおかしなところをまとめるというのは、面白いですね。教育という話になりますと、大人の社会の歪んだものは、教育で直せるんだ、という話になりがちです。子どもたちに対する教育の中でそれを直そうという発想に、どうしても大人はなりますね。言葉は悪いですけれども、ペットとして扱っているんじゃないか、と思えることもあります。いくら学校で正しいことを教えても、大人が守っていない状態を目の当たりにして、守れるわけがないだろうと思っております。そのようなことから、子どもから見た大人のおかしなところをまとめて、それをわれわれ大人がしっかりと受け止め、大人一人ひとりが変わっていって、その背中を見た結果、子どもも変わっていくのでは思います。それは、今を生きる私たち大人の責任だと思います。アイデアとして面白いと思いますので、検討させて下さい。

投票に対するインセンティブは、難しいところがあります。ただ、投票率が 50%を切っているまちというのは、私はおかしいと思います。そのようなことでは、地域主権とか自治とか言う権利がないと思いますので、投票率に関しては、ずっと取り組むべきことだと思いますし、市民が知恵を出し合うところだとも思っています。なぜか政治の話をするのはタブーという風潮もありますから、そんなことはない、当たり前のことですので、これからもいろいろと意見を頂きたい部分でもあります。

それから、学校給食の話がございました。実は千葉市でも、地産地消には非常に取り組ん

でおりまして、今でも４割近く地場の産品が使われております。私も、全部ご飯にしたら、という話をしたことがありますが、そうすると今度は、市内産の米が供給しきれないということです。マニフェストにも書いておりますが、学校給食については、地産地消の拡大に努めてまいりますし、マーケットがしっかりしていますから、農家の皆様方にも、学校給食に卸せるようなものを作って頂けるよう、お願いをしなければなりません。そのようなことを通じて、耕作放棄地の活用にも取り組んでいかなければと考えております。

そうしましたら、もう一度フリーに、ご意見を頂きたく思います。

【鈴木企画調整局次長】

申し訳ございませんが、そろそろ終了のお時間が迫ってまいりました。人数を限らせて頂きたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

【熊谷市長】

そうですか。では、前の方と後ろの方、それぞれお願いしたいと思います。

【市民Ｐ】

タッチパネルを毎日眺めて暮らしておりますが、この間公開ヒアリングがあり、中心市街地活性化事業、通信事業の会議を傍聴しました。私は、あの物体は嫌だなと感じている中の１人なんですが、資料によりますと、廃止した場合、商店街の方たちの士気が下がると書いてありました。あんな機械だけでまちが活性化するなら、こんな楽ちんなことはありません。

私は本千葉生まれ、中心市街地育ちですが、中心市街地を眺めながら生きてきた人間からしますと、銀座通りや栄町など、商店街に魅力がないと思うんです。ですので、近場の方々にアンケートをとって、商店街の方たちと話し合う場ができたらいいと思います。

それから、産業まつりを卸団地でやっておりますが、私は１度も行ったことがありません。ですから、中心市街地で「産業まつりⅡ」みたいにやったら、もう少し人が集まるんじゃないかな、と思います。

【市民Ｑ】

中央区に住んで 20 数年になります。元々は浜松の出身でサッカーが好きなものですから、ジェフの応援をしています。

将来は、僕たちではなくて、若い世代が中心になると思います。千葉中学ですか、中学高校一貫制の学校ができましたが、今後を見据えると、一貫性のある学校ができればいいのかなと思います。先ほど図書館の話が出ましたが、空いた校舎は図書館に活用したり、芝生の運動場にして、われわれ老人の運動の場にしたら良いと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず中心市街地の活性化に関しては、私も情報通信産業の会社に勤めておりましたけれども、あの端末はあれではだめだと、はっきりと申しあげております。端末を作っただけで商店街が活性化すれば、そんな楽な話はないわけで、事業仕分けの前に、抜本的な見直しをす

べきだと申しあげておりますし、地元の方の意見を聞く場も、設けるかも知れません。少なくとも、あのような形ではない形で、活性化を図るべきだと考えております。

商店街にそもそも魅力がないというお話しがありましたが、ここが本当に苦しいところで、商店街と申しますか、本当にやる気のある店や、オンリーワンを持っている店はですね、続いていたりします。そうでない場合は、いくら行政が後押ししても、だめなものはだめなんですね。行政のサポートがないからだめ、というわけではないんです。では、われわれがどのようなサポートをしていけるのか、ということについて、常に悩んでおります。

それから商店街というものに関しては、商店街がもはや横の連携を失っているケースも多くなっています。例えば、会長さんに皆さん何も言えないとか、実は商店が連合会にあまり加盟していないとか、いろいろあります。われわれがどこまでできるか、ということと、それから連合会のような民の部分がどこまで主体的に関わるか、ということと、両方あると思います。

それから学校のことですが、これから確かに空き教室も出てきますので、限りある資産を有効に活用するという観点から、常にわれわれは意識しております。特にこれからの 10 年、20 年は、計画的にやっていかなければならない分野だと、考えております。

【鈴木企画調整局次長】

ありがとうございました。

それでは最後に、市長より今日の意見交換に関して、まとめのごあいさつを頂きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【熊谷市長】

皆さん、ありがとうございました。

本当に、すべての方にご意見を伺いたかったのですが、限られた時間で、大変申し訳なかったと思っております。もし可能であれば、ご発言できなかった部分を紙に書いて頂くなりして頂ければ、読ませて頂きます。また、市長への手紙という形でも、私はすべて読ませて頂いていますから、よろしいかと思います。

実はこのタウンミーティングですが、始まる前は、私も担当者も、どうなるのだろうと予想もできませんでした。以前このような試みをした時に、地元の要望ばかりが出てしまって苦しいものがあったので、そのようなことを恐れていたわけです。そのような危惧をしつつ、しかし、みんなで基本計画をつくっていくんだという、この一点をテーマにしてやっていこうということで、今回は、このような場を設けさせて頂きました。

そのようなことから正直に申しあげますと、もう信じられないくらい、いろいろなご意見を頂きました。われわれ自身が考えていたものもありますし、それ以上に教えて頂いたものもあります。ご意見は、これから基本計画の方向性を考えていく中で参考にしてまいります。

これで終わりではありません。われわれはワークショップもやりますし、また、シンポジウムもやります。さまざまな形でやってまいりますので、ぜひとも今日を契機にして頂きたいと思います。まちにお戻り頂いたら、また周りの人を巻き込んで頂いて、とりまとめた私案なり、そういったものを持ち寄って頂いて、みんなでこの千葉市を最高のまちにしようじゃないかとか、そういった取り組みを始めたいと思っております。

今日は本当に、土曜日の午前中というお時間を頂きまして、いろいろと貴重なご意見を頂いたことに対しまして、深く感謝をいたしております。本当にありがとうございました。

■閉会

以上